

旧町名	由来など
① 最上町	最上義光時代、最上方面から来た与力給人が住んでいたことに由来。
② 立町	上杉景勝が最上義光に備え、青原寺に出城の橋を置いたことに由来し、町を立てるという意味を持つ。
③ 長泥町	最上義光家臣、志村伊豆守が東禪寺城主となった際、長泥(現東根市)の人たちが居住していたことに由来。
④ 袋町	東端が袋小路になっていたことに由来。寛文11年(1671)には55軒。
⑤ 横町	最上町、長泥町、袋町に対して横であることから町名が付けられた。
⑥ 戸沢町	最上義光家臣、志村伊豆守が東禪寺城主となった際、戸沢(現戸沢村)の人たちを住ませたことに由来。
⑦ 横道町	町となったのは明治以降。川端通りは酒田へ出る幹線道路であった。
⑧ 錫冶町	慶長・元和年間の町割、初め中町1丁目、錫冶職人が多く居住したことによる。元禄9年(1696)錫冶屋敷55軒。
⑨ 桶屋町	慶長・元和年間の町割、初め中町2丁目、桶屋職人が多く居住したことによる。元禄9年桶屋敷19軒。
⑩ 大工町	慶長・元和年間の町割、初め中町3丁目、大工職人が多く居住したことによる。元禄9年大工屋敷20軒。
⑪ 檜物町	創始明暦2年(1656)～天和2年(1682)か。曲師町(マゲシマチ)とも云う。檜物師が多く居住していたので名付られた。
⑫ 上内匠町	元和5年(1619)に肝煎斎藤内匠により町割がされ、その名がついた。天和3年(1683)ころ上と下に分れた。
⑬ 下内匠町	元和5年、肝煎斎藤内匠により町割、5丁目までのうち、2丁目までを上、それ以後を下とした。
⑭ 十王堂町	明暦2年頃横錫冶町、永正元年(1504)創建の伝承のある十王堂の名による。浄土町とも書いた。
⑮ 上・下寺町	創始不詳、寺の門前町、慶長17年(1612)寺14、出家41人、門前72軒。寺町1～5丁目。
⑯ 上・下荒町	天正年中～慶長17年の町割、本町(モトマチ)に対して新町(アラマチ)の意か。
⑰ 上小路	酒田町創草期の猿師町の一部、もと猿師町東小路、上猿師町。
⑱ 下小路	酒田町創草期の猿師町の一部、もと猿師町西小路、下猿師町。
⑲ 桜小路	明暦2年に片平町、元禄9年に八間町といわれた所。町名の由来は桜並木があったからといわれる。
⑳ 出町	猿師町の一部であるが、猿師町の端に町割、元文4年(1739)の三十六人御用帳に出町の名が出る。
㉑ 秋田町	天正から慶長17年の町割、町名は秋田街道に面していたからとされる。豪商永田若狭が秋田より居住等の説あり。
㉒ 伝馬町	秋田街道入口に当たり、伝馬宿駅であったことに由来、宿場町、慶長17年～明暦2年の町割。
㉓ 今町	明暦3年～天和2年の町割、天和3年に家数35軒、秋田街道上にあることから茶屋家業の者居住。
㉔ 上・下台町	明暦2年から町割、町名は町奉行中台式右衛門の名に由来するとの説がある。
㉕ 染屋小路	河岸八町の一つ。正保4年(1647)に名がある。染屋家業の者が居住していたことによる。
㉖ 利右衛門小路	河岸八町の一つ。明暦2年以前の創始、酒田町の長人・村井理右衛門が居住していたことに由来する。
㉗ 下袋小路	河岸八町の一つ。明暦2年以前の創始、町名の由来は上・中袋小路とも街の形状により、袋小路になっていた。
㉘ 実小路	河岸八町の一つ。もとは御宿小路といつた。天正19年(1591)加賀の前田利家の宿舎になったことに由来。明治9年実小路となる。
㉙ 中袋小路	河岸八町の一つ。明暦2年以前の創始。町の形が袋になっていることから町名がつけられた。
㉚ 山椒小路	河岸八町の一つ。慶長14年(1609)に名がある。山椒小路とも書いた。
㉛ 稲荷小路	河岸八町の一つ。寛永元年(1624)に名がある。町内にある竜徳稲荷の名に由来する。
㉜ 上袋小路	河岸八町の一つ。明暦2年以前の創始。河岸八町は船乗り家業も多く、船乗町ともいわれた。
㉝ 着町	明暦2年以前の創始。魚屋が多かったので名付けられた。細着町とも云った。内町組に属す。
㉞ 上内町	由来は亀ヶ崎城の総曲輪(外部)内ということで名づけられた。元和8年(1622)武家屋敷が引揚げとなり、跡地に町割。
㉟ 下内町	貞享2年(1685)内町を上下2町に分けたことによる。鵜渡河原や農村からの入り口に面し、商店が軒を並べていた。
㉟ 片町	由来は西側だけに人家があったことによる。明暦2年に家数73軒、上蔵、新井田蔵などがあった。
㉞ 中之口町	最上氏時代、城の中の口に位置することによる。古くは、かしはた町、中の口川端ともいわれた。
㉞ 元米屋町	16世紀の武蔵家時代に年貢米が置かれ、その関係者が居住、のち新米屋町が出来ると元米屋町と呼ばれた。
㉞ 米屋町	天正18年(1590)～文禄2年(1593)に町割、荒瀬郷、遊佐郷の米を取り扱う。新米屋町ともいった。
㉞ 給人町	最上氏時代、給人を居住させたことに由来すると伝えられている。寛文10年(1670)にその名がある。
㉞ 山王堂町	慶長6年(1601)～寛永13年(1636)、上の日枝神社が鎮座していたことに由来、山王堂小路ともいった。
㉞ 八軒町	明暦2年～天和2年に米屋町から分かれ、一町となる。始め八軒の家があったところから八軒町と呼ばれた。
㉞ 荒瀬町	明暦2年以前の創始。荒瀬郷の米宿があったと伝えられる。貞享元年(1684)野附家が居住。
㉞ 浜町	この地一帯が砂浜であったことによる。善導寺小路、内町組浜町(ハマノマチ)ともいわれた。
㉞ 天正寺町	天正寺があることによる。古くは浜町(ハマノマチ)堅町ともいわれ、米屋町組浜町(ハマノマチ)である。
㉞ 近江町	最上氏時代の川北奉行寺内近江の屋敷があったからと伝えられている。明暦2年には浜町(ハマノマチ)横町と書かれている。
㉞ 築後町	川北奉行斎藤筑後の宅地があったことに由来。下築跡に天和3年から家作、貞享3年筑後町に。鶴田口浜町(ハマノマチ)ともいわれた。
㉞ 新片町	享保11年(1726)御蔵の防火のため、隣接の片町東側27戸、南角4戸が筑後町はずれに移転して一町を作る。
㉞ 外野町	宝永5年(1708)内町組の名子など家作鷹町とともに新地と称した。新地西町ともいう。昭和24年戸野町となる。
㉞ 鷹町	宝永5年、内町組の名子などが家作。現瑞穂神社を鷹尾山金剛院といったことから名づけられた。
㉞ 新町	古い歴史の高野浜に町作り、万延元年(1860)新町と名称。高野浜新屋敷などの名称がある。
㉞ 濱畠町	平田郷大町組に属す。寛保2年(1742)頃より町作り、大庄屋尾形家屋敷、本間家下屋敷、天王社が建つ。
㉞ 千日堂前	萬治年間(1658～61)に創始された瑞相寺を千日堂抱念仏堂といったことに由来し、南北に分かれていた。
㉞ 堀端	錫冶町から本間家旧本邸東側にかけて、もと東禪寺城の外堀があったので町名となった。
㉞ 祖父山下	元禄11年(1688)妙法寺移建の際、一面の砂原の風砂を防ぐため老僕に簀垣を立てさせたので、次第に砂山となったのが町名の由来である。
㉞ 柳小路	宝曆10年(1760)、東西防火壁として道路を広げ、新井田川から水を引いて溝を堀り、のち柳を植えたことによる。
㉞ 長坂	本間光丘の植林事務により、下山王社から高砂に通じる道は一大美林となり、長坂と呼ばれ親しまれたことから名付けられた。
㉞ 高野浜	酒田湊の繁栄と共に次第に人家が建つようになった。文政元年(1818)には40軒。万延元年(1860)新町と改める。
㉞ 神明坂	皇太神社(神明様)由来。文化14年(1817)本間光道(4代)により、坂の石段が整備された。
㉞ 芭蕉坂	御米置場から鶴岡街道の出町、六間小路に出る坂で、芭蕉もこの坂を通って不玉宅を訪れたといわれている。

表紙写真：内町組塞道幕絵(下内町自治会蔵)

酒田市教育委員会 社会教育文化課

〒998-8540 酒田市本町2-2-45
TEL 0234(24)2994・FAX 0234(23)2257

ふるさと探訪

さかたの旧町名



旧町名保存標柱マップ

酒田市教育委員会

旧町名を訪ねて

旧町名保存標柱は、今では使われなくなった
ふるい町の名前を永く保存するために、
町の名前や由来などを記入した標柱を、
ゆかりの場所60ヶ所に設置したものです。

対象は昭和8年市制施行当時使われていた町名のうち、
その後住居表示制度によって失われた「旧町名」で、
旧市街区域を中心とし、一部合併した周辺地域におよんでいます。



「東講商人鑑」に見える町名（安政2年[1855]ころ）

大工町商店街 昭和8年

